

武州みたけ

第六十一号

御子殿神社

「拝殿御扉」

朝陽が反射した拝殿の扉。神聖なエネ
ルギーを感じる瞬間でした。

金井宮司、就任おめでとうございます！
二千年以上続く武蔵御嶽神社の歴史に
新しい光が放たれることと思います。
神社の益々の発展を願っております。

(写真・文 鶴巻育子)

就任の御挨拶

宮司 金井 格 かない いたる

御挨拶の前に、ロシアによるウクライナ侵攻の早期終息と、世界各地で起きている異常気象により大きな被災を受けた皆様に見舞いを申し上げると共に、亡くなられた方々に御冥福をお祈りいたします。

さて、この度令和五年三月八日の神職会におきまして、当社宮司に選任されました金井格と申します。何分にも浅学非才の身の上、先輩方が多くいる中選任されましたので辞退も考えましたが、任命されたからには全力で神明奉仕に取り組む所存です。どうぞ須崎前宮司と同様、御指導、御鞭撻のほどお願い申し上げます。

さて、六年後には酉年式年大祭という大きな祭典を控え、それに進むべき所なのですが、現在緊急の課題といたしまして、参道の枯損木、ナラ枯れの伐採を行わせて頂きます。特にナラ枯れの問題は全国に広がっており、御岳山でもここ二三年で大きな被害が見られるようになりました。伐採を行うにも機械も入らず急な斜面での作業となり多額な費用が掛かる為、神社といたしましても工面に頭を悩ましている所です。なんといたしましても参拝に來られる皆様が安心して参拝できますよう神社として精一杯努めさせて頂きます。

神社を取り巻く環境も、社家の後継者、講中の減少等多々厳しさを増している中、奉賛会の設立等明るい兆しも見えて参りました。これからも皆様の御意見を承りながら、一歩ずつ進んで参りたいと考えております。

今後とも神社護持、山上発展の為、微力ながら力を尽くして参りますので、皆様のなお一層の御支援、御厚情をお願い申し上げます。



これからの季節、山は紅色に染まり、爽やかな風に包まれ、そして正月を迎えます。多くの方々の御参拝をお待ち申し上げます。

最後に、皆様の御健勝と御多幸を御嶽大神に御祈念申し上げ、宮司就任の御挨拶とさせて頂きます。

御奉賛のお願い

皆様方のお蔭によりまして、昨年度は、赤糸威鑑・紫裾濃甲冑の修理に宝物殿のケースや湿気対策工事、避雷器の設置など、懸案の事業を行うことが出来ました事、厚く御礼申し上げます。今後とも気持ちよく安心してご参拝いただけるよう、引き続き産安社本殿修理、枯損木の伐採などを進めて参りたいと存じます。

特に今年になり、ナラ枯れが広範囲に進み、一刻も早く対策しなければなりません。菌に感染した樹木は枝折れや倒木の恐れがあるため、道沿いの危険性の高い樹木より伐採していきますが、境内地全域に及ぶため継続した伐採と保全のための植樹が必要となります。参道の御神木についても、枯損木等、落枝倒木の危険を回避するための対策も行っていかなければなりません。皆様の深いご理解とご信仰を賜り、心からの御奉賛を仰ぎたくお願い申し上げます。

御奉賛 一口 二千元



武蔵御嶽神社祭礼日

一月	一日 元旦祭
	三日 太占祭
	大口真神社祭
二月	三日 節分祭
	初午 稻荷社祭
	十一日 紀元祭
	二十三日 天長祭
三月	八日 春季大祭(祈年祭)
	二十二日 奉納俳句奉告祭
四月	下旬 産安社祭
	二十九日 奉納剣道大会・介山祭
五月	七日 日の出祭(宵宮)
	八日 日の出祭(神輿渡御)
	十五日 男具那社祭
	大口真神社祭
六月	三十日 夏越大祓
九月	二十九日 大口真神社祭
	流鏑馬祭
十月	第一日曜日 敬神奉賛会大祭
十月	第三日曜日 奉納剣道大会
十一月	八日 秋季大祭(新嘗祭)
	二十三日 末社祭
	三十一日 大祓
毎月	八日 月次祭
毎日	日供祭
六月・十一月	第四日曜日 夜神楽
六月・十月	神楽と雅楽の一般公開
六月・七月・九月	修行体験講座

武蔵御嶽神社 敬神奉賛会

会長就任の御挨拶

野崎 啓太郎

この度、令和五年七月一日付で武蔵御嶽神社敬神奉賛会会長に就任いたしました野崎啓太郎と申します。敬神奉賛会は前任の村野弘一様が組織を整備され、昨年十月に設立報告祭と設立総会を挙行できました。今後も敬神奉賛会を会員の皆様と共に、御嶽大神の神恩に感謝し、大神を支える組織として整備して参りたいと存じます。

私は現在、東京都農業協同組合中央会会長を務めております。東京都内における野菜・果物の生産地では、古くより御嶽講が組織されています。多摩川の上流に鎮座する御嶽大神が恵みの水を与えられ、田畑を潤し、集落を豊かに導く、との信仰のもと現在も多くの方々が御岳山を参拝されています。

大神を信仰することは、農業の、あるいは人間生活の始まりであります。長い歴史の中で私達は多くの御加護を頂きながら、豊かな生活を築いて参りました。農家に生まれ、御嶽講の講員一人でもある私は、まずこの神恩に報いるように神社の発展に寄与して参りたいと考えております。

崇敬者の方を対象に敬神奉賛員の募集を広く始めたのは、平成二十九年十二月の事でした。武蔵御嶽神社はおもに東京都 埼玉県、神奈川県を中心とした関東地方の方々から崇敬を集めてきました。この方々に神社から情報をお届けし、参拝の便宜をはかるうとしたのが敬神奉賛員制度の始まりでした。

現在は日本列島の各地の方々より、会員の申込を頂いております。身は遠方でありながら、大神のご加護にあずかりたいとして申し込まれた方があったと伺いました。距離の遠近に関わらず崇敬の念の強きこそが、大神の御恵みを導きます。また、夜に御岳山に灯る明かりをたよりに、静かに手を合わせる方があったと伺いました。「祈る」という行為は自身の心に安らぎを与えてくれます。私も奉賛員の皆様と同じく、敬神の念を大切に務めて参ります。



御嶽大神が鎮まるこの御岳山は、悠久の歴史を誇ります。この武蔵御嶽神社が次代へと継承されるように、御嶽講、敬神奉賛会、崇敬者の皆様と共に尽力して参りたいと存じます。どうかお力添えを頂きたくお願い申し上げます。

敬神奉賛員募集のご案内

当社では、敬神奉賛員を募集しております。敬神奉賛会とは、御嶽大神の御神徳を敬う方々の集まりです。皆様の敬神の念により、武蔵御嶽神社が永続的に維持発展することを目的に創設されました。

奉賛員には例祭、祭典・行事のご案内のほか、新年に向けての御神札頒布など各種の特典が受けられます。趣旨にご賛同いただき、ご入会くださいますようご案内申し上げます。

来年度より、会員の種別が変更となります。現会員の皆様におかれましてはご確認を頂き、来年度更新の際はお手続きをお願い申し上げます。

賛助費

特別会員（会社で入会希望の場合） 一〇、〇〇〇円
個人会員 五、〇〇〇円
家族会員（個人会員の同一世帯のご家族一名様毎） 三、〇〇〇円

※詳しくは社務所までご連絡ください。



令和4年10月2日 敬神奉賛会設立奉告祭と懇親会の様子

「ニホンオオカミ」お貸しします

権禰宜 馬場 慶太郎

皆様ご周知の通り、当社には御眷属として『大口真神（おおぐちまがみ・おいぬさま）』がお祀りされています。ニホンオオカミをモデルとし、当社奥の院にお祀りされる『日本武尊』に付従う神様として祀られ、農村を荒らす害獣除けや盗難除けなど、あらゆる厄を除けて下さる神様として、江戸時代からは主に関東地方の農家を中心に信仰を集めました。

当社では、その大口真神様を模したお札を数種類頒布致しておりますが、中でも紙製の切り札ならんで古くからお分かちされ、形体も特殊なお札に『大口真神引替札』があります。

玄関・門柱などに祀られた狼を模したお札を見た事があると思います。大口真神様のお札として最も広く頒布されているのはその「切り札」ですが、引替札は木製の箱の中に内芯（ご神体）を入れ、羽織に包んで麻紐で縛った「箱札」です。羽織にはお札を受けた日付とお名前が書かれることが一般的です。古くから「講」の方を中心にお分かちされており、多くはお稲荷様などと同様に屋敷の庭に専用のお社を設けて安置され、所謂分社のように、まさに神様を“お貸り”するように祀られます。

引替札は一体一体、神職（御師）による手作りで、お札を入れる箱は繰り返し使用するため焚き上げせず、一年おきに神社もしくは担当の宿坊にお返ししなければなりません。

近年ではおいぬさま信仰の拡がりから、全国各地から一般の授与も増えており、神棚等にお祀りされる方もいらつしやいます。

ご自宅や各営業所などのあらゆる難を除けて下さる有難い神様です。おいぬさまのご守護が必要な方、『一家に一体、“お貸し”します。』



令和五年御頒布初め申候

愛犬みくじ

此の世に在る櫛の齒の数だけ
物事ヲ占ひ智恵ヲ授クと伝ふ
櫛麻智命様の御力をいたゞき
愛犬と飼ひ主の運勢ヲ占ひ
新解釈「犬の気持ち名言」付



各種祈禱済
犬シール守
全六種付属
健康長寿
良縁成就
心願成就
厄難消除
交通安全
開運招福

座鎮上頂山岳御州武
社神嶽御蔵武
地番六七一 山岳御市梅青
(ル上道鉄山登岳御)
番〇〇五八七八七 話電

御初穂料 金貳〇〇圓也

徒然ばなし

『帰ってきた何足の草鞋?!』

権瀬 宜 久保田 享

YouTube 御岳山 Life
「法継ぎ」こちらから ↑

私がこの山に帰ってきた早二十年が立ちました。神主として神社に奉仕する傍ら、家に帰りお客様をもてなし、観光について会議に参加し、消防団員として人命救助を行うなど「何足の草鞋」を履いています。今回はそんな私の家業である、御師の入口「法継ぎ」についてお話ししたいと思います。

私は久保田家の第十七代目として生を受けました。小さい頃から、家族にこの家を継ぎなさいと特に云われた事は無いのですが、山の住民や関係する人々に無言のプレッシャーを頂き現在に至ります。御岳山で御師の資格を取るには法継ぎという修行をしなくてはなりません。今年は私の息子が第十八代目として法継ぎを受けました。その内容は一週間、神社に寝泊まりし、朝夕は滝行、昼は祭典作法や着物の着付け、祝詞の読み書き、清掃等を行います。食事は質素でおかゆと味噌汁、漬け物があるぐらいです。

第一日目には食器用の火熾しを「舞錐式火熾し」という道具を使用するのですが、これは中々火が着きません。火をおこさなければ食事にはありつけませんので、十代の若者たちは必死です。こうして火の有り難みや、先人達が築いた文明に感謝するのです。

滝行は毎日、朝六時、夕十六時三十分の2回行います。そこには先輩達が指導に駆けつけてくれます。ここでは自分たちが多くの人々に支えられて居る事を感じる場となります。

あれよ、あれよという間に時間だけが過ぎていき、最終日を迎えます。最終日には実際に装束に着装し、御神殿にて祭典を執り行います。指導者や保護者に見つめられ、とても緊張して奉仕を終えます。

自分が十七才で経験した事を自分の息子が経験する。こうして過去から未来に紡がれてきたのだと、そしてこの山にはその伝統を先人達が築き、今に続いていることに感謝致します。



御岳山売店紀行

かめ 屋

初代 須崎貞雄さんによる
講中戦勝祈願の集合写真

神代ケヤキの坂道を登りきると売店が立ち並びノスタルジックな雰囲気を出す。江戸の時代より参拝者をもてなす商店街である。その一番手前にあり甘味処として常連や女性客で賑わうのが売店「亀屋」である。

現在は女将の里子さんと長男長女の三人で店を営んでおり、その歴史は三代前の須崎栄三さんが大正時代にこの場所に店を構えた事に始まる。須崎家は武蔵御嶽神社の社家でもあった。多くの講中氏子を抱え、先代克雄さんの時まで代々御師として神社に奉職をしていた。天狗岩の烏天狗像や襷場綾紬の滝の鳥居など多くの寄進に携わり、御名を神社に残している。

店の中に入ると大正時代の趣が随所に視られ、特に欄間や店名の額などに開業当時の店主のこだわりを感じる事ができる。対応する里子さんの人柄も相俟ってなんとも居心地が良く、つい長居してしまう。

亀屋の人気はやはり三十年以上続く自家製「わらび餅」と「麴の甘酒」で、参拝客だけでなく山上住民にもファンが多く、筆者もその美味に魅了された一人である。

御嶽詣や登山の際は、売店亀屋の絶品甘味を堪能するのはいかがだろうか。



数々の登山者を虜にした亀屋の自家製わらび餅

ムサくんだよ

山の春や夏は都市部よりも遅く来るのに、秋は早く来ます。いつの間に季節が逆転したのだろうと思ひながら、今年もあつという間に夏のレンゲシヨウマが咲き終わり、御岳山に秋が訪れます。

御岳山にはそれぞれの季節の色々な楽しみがあります。秋の私の楽しみは、まずはやはり紅葉です。朝ヶ岳ブルカーを降りてビクターセンターまで歩く時、正面に見える奥の院がだんだんと色づいてくると、季節が進んでいることを実感します。綺麗な三角形をした奥の院は、夏は鮮やかな緑ですが、紅葉の時期は山肌が秋の色でモザイク



イクのようになります。毎日のように「昨日より色づいている！」と思いながら眺めています。この通勤中に見る奥

入る、天氣の良い日の午前中です。

秋の花も、春や夏の花よりも少ないからか、見つけると嬉しくなりま



ムササビ

の顔を飛んだ。
。他にもテン
声が聞こえた
り、夕暮れの
森の雰囲気にも
もワクワクし
ます。

ぜひあなた
の秋の楽しみ
を見つけない
てください。



リンドウ

す。特に参道脇などに咲くリンドウは、シックな紫色が秋に似合う花だなーと見るたびに感じます。

また、秋は仕事

が増えるのも楽し
がちようど動物た
ちの活動時間にな
るため、帰り道で
動物に出会うこと

みです。ムササビが目の前を飛んだ
ラッキーな日もあります。他にもテン

り、夕暮れの森の雰囲気にもワクワクします。

ムササビ

ぜひあなた
の秋の楽し
みを見つけ
にきてく
ださい。

法ほ継うぎつ

近年少子高齢化が騒がれておりますが、御岳山も例外ではなく、御師や宿・売店の後継者問題が今後の課題となっておりま。神社といたしましてもこの問題を厳粛に受け止めて、御師の存続・地域の発展と共に講中氏子、参拝者の皆様の憩いの山として永遠と存続できるよう全力で取り組みんでまいります。

そんな中、本年御師（神職）を
指す四名が法継ぎを行いました。近
い将来神社、御岳山を担う若者です。
我々現神職は、彼らが受け継ぎ守り
続ける神社と御師の為、これから何
をすべきなのか日々思慮を巡らせて
おります。



写真右から

高名 絵さん (大4)、久保田桃乃介さん (高2)
天野充朗さん (高1)、片柳信之丞さん (中2)

灯籠奉納

多くの方にご奉納いただき誠に有難うございます。

準備が整い次第、銅鳥居上より神社に向かって六基建立させて頂く予定です。

〔一基 奉納者（順不同・敬称略）〕
株式会社 喜丸

佐々木洋一・操子・姫生・莉愛

西岡甲房 西岡文夫

世田谷 玉川寿講中

秋山辰則

令和四年八月一日

（一万円以上順不同・敬称略）

株式会社 丸井紙店

有限会社 金咲通産 金咲 強

株式会社 荒井電業社 荒井茂典

銀座タックス・タックス 巳作和恵

令和五年想像された狼たち展メンバー一同

三箇 瀧

巳作和恵

須崎 裕

久保田直行

市川 実



奉納

令和四年八月一日
令和五年八月三十一日
（一万円以上順不同・敬称略）

有慶社 アケ・サポート・スタッフ 今村 穰

株式会社 丸井紙店

細山板東御嶽講

株式会社 ティエラ・リサ・セル 本道真智子

株式会社 さくらプロダクション 小倉美恵子

神木講中 永井敏雄

株式会社 野島商事 野島光伸

井上光子・中村佐内・他一同

上板橋桜川敬神講

株式会社 ウチダハウス

高瀬講中 小野源一

有限会社 スペースシップ 梅原英明

桜接骨院 馬場一行

秦野講 栗原幸一

神田神社 清水祥彦

有限会社 小町建築設計事務所 小町幸生

有限会社 サンペアー 進藤喜一

大泉辛酉講 加藤友久

横浜池辺西部講中 中山久江

有限会社 スペースシップ 梅原英明

福泉自動車株式会社 嶋田亜也子

岡野恵造 嶋田亜也子

栗原祥一郎 杉山富美夫

宮内寛光 大場善延

根岸講 我妻 遼

宮川祐一 黒川富貴雄

浅野晃裕 野田敏夫

野嶋和之 小村高平

嶋田浩典 川村元昭

高瀬御嶽講

五十嵐金夫

村野英夫

大口 眞

田中満男

山田國光

喜田 豊

佐藤玄宗

市川 実

市川良子

宮井美美子

宮井利香子

練馬中村講中

梶 恵司

香取キヨ子

大塩忠正

坂本武志

井戸理恵子

渡邊洋子

佐藤 登

喜田 豊

濱中満江

高野六雄

城田安里羅

辻谷 孜

渡邊真理

石橋正裕

大河真一郎

月影塾

松井暢子

荒木ちはる

弘中朋良

大澤 一之

小川洗太郎

相山美雄

成田八重子

石橋正裕

東海林 守

清水元美

青木克夫

中嶋理明

馬場政宏

熊谷定芳

小泉清子

注連縄奉納

拝殿正面を飾る大注連縄等を
ご奉納いただきました。
誠に有難うございました。

「御」講 麻問屋 麻光



お知らせ

大変遅くなりご心配をお掛けしておりましたクラウドファンディングへご支援下さった皆様のご芳名揭示は、八月末、宝物殿前に掲出いたしました。ご来山の折には、ぜひ宝物殿にお立ち寄りくださり、ご芳名もご確認下さいませ。

多くの温かいご支援を頂き誠に有難うございました。



宝物殿前、畠山重忠像の左手に掲出いたしました

太々神楽奏上

今年五月八日新型コロナウイルスは第五類感染症に移行され参拝者はほぼコロナ禍前に戻り、太々神楽奏上も少しずつ増えつつあります。神人和楽の太々神楽、継承のためにも多くのお申込をお待ち申し上げます。

令和四年九月一日〜令和五年八月三十一日

- 府中市 京所講中
- 横浜市 池辺西部講中
- 川崎市 坂戸御嶽講中
- 川崎市 平講中
- 川崎市 稲田堤御嶽講中
- 川崎市 馬絹講中

神楽と雅楽の一般公開（神楽殿・十二時開演）

六月・十月 第三日曜日

夜神楽（神楽殿・夜八時開演）

六月・十一月 第四日曜日

神社の杜（六十一）

『杜が危ない「梢枯れ」』

片柳 茂生

近年、各地で広がる「梢枯れ」という現象をご存じでしょうか。これは、カシノナガキクイムシという甲虫が媒介するナラ菌によってミズナラ等が集団的に枯れてしまう現象です。また、この虫は細い樹よりも年数を経た太い樹を好む習性があります。

話には聞いていましたが、御岳山では見られなかったため、結構他人事のような気でいました。ところが昨年の夏、突然と言ってよいのか、ついにと言ってよいのか、起こってしまったのです。と、言ってもまだまだ数えられるくらいの被害でした

が、神社の杜にはミズナラの大木が多数存在し、それらはこの虫の格好の餌食となってしまうのが心配されました。

心配は現実のものとなってしまいました。西東京市の講中で造園業を営むO氏が、里の被害の状況を看て御岳山の事も危惧され、何度も山に足を運び御師を通して薬剤の提供や助言をして下さいました。それにもかかわらず今年の夏、杜はこの虫の猛威に襲われあちこちの木が紅葉したように茶色くなってしまい、被害にあつた樹を数えられる状態では無くなってしまいました。

しかしこれは自然のなす事、いずれ杜は再生されるはずですが、本来自然は、太い樹が倒れれば、それまで大樹の陰で育つことを抑制されていた幼樹が、たくさん太陽を浴びやすくと育つ事で杜は年数を経て再生するはずなのですが、今御岳山ではニホンカモシカやシカが増えており、これから伸びようとする幼樹はそれらの動物に皆食べられてしまい、いつ迄経つても樹の育たない空間が杜の中に存在する事も考えられ

ます。また、クマやイノシシは秋にミズナラなどのどんぐりをたくさん食べて冬を越します。そのどんぐりがなければどうなるでしょう。動物は畑や人家のそばに来て餌を求めることが考えられ、このままでは山の生活さえも脅かされる事になりかねません。

もっと怖いこともあります。梢枯れを好むカエンタケが発生してしまう事です。カエンタケは発生が少なく、めったに出会うキノコではありません。しかし、非常に毒性が強く食べることはもちろん素手で触るだけでも皮膚炎を起こしてしまうというキノコです。赤いキノコを見つけたら絶対に触らないことが肝心です。

たった5ミリにも満たない虫によって、御岳山を取り巻く自然環境が大きく変化してしまう現象が今起こりつつあります。もう私たちの力だけでは無理です。カシノナガキクイムシの天敵を早く現れ、そして杜を救ってください。そうマイタケがいつ迄も採れるように。

あ と が き

世界各国から異常気象の知らせが届きます。今年も地球温暖化は止まる気配すらなく、水河融解は海面を上昇させ、大気乾燥が大規模火災を導き、豪雨は土砂崩壊・大規模浸水を起こしています。人類は度々自然災害を経験していますが、発生頻度は現在の様に頻繁であったのでしょうか。我が国では古くより、自然災害は神の怒りであると捉えられてきました。災害が発生すると朝廷は荒ぶる神に対し丁寧な祭祀を行い、神の怒りの鎮まると、再び平穏な季節が訪れることを祈ってまきました。災害を経験しながらも、豊かさの中に平穏な生活がもたらされているのは、やはり大神のご加護によるものだと思います。

祭典を行う前には齋戒という禁欲的な時間が設定されます。身体的な清潔さはもとより、慎みの時間の中で平穏な心を保つように過ごします。気候変動の一因が人間の経済活動にともなう環境破壊原因であるならば、荒ぶる自然への畏怖の心を持ち謙虚に過ごすことが必要なのです。

何れの神の怒りか、世界的な異常気象が沈静化することを願ってやみません。

最後に、この半年間を無事に過ごせたことを御嶽大神に感謝し、毎年丁寧に教授下さる先生方、ご奉納頂きました皆様、各種祭典や行事に御協力、御協賛下さいました崇敬者の皆様、各所関係機関の皆様、厚く御礼申し上げます。また鶴巻育子様玉稿を有難うございました。

令和五年 九月二十九日発行

編集 武蔵御嶽神社

TEL 〇四二八(七八) 八五〇〇

FAX 〇四二八(七八) 九七四一

http://www.musashimitakejinja.jp/印刷 (株)成和印刷

公式ホームページ



HP

武蔵御嶽神社 公式SNS



facebook



X (Twitter)



instagram



イラスト：たいやきジロー